**加藤民吉について**

○父である吉左衛門と熱田新田開発に行ったとされるが、どうして、どのように行ったのか？本当に津金文左衛門に見出されて磁器開発を行ったのか？

○津金文左衛門は、どうして磁器開発の必要性を感じていたのか？当時の尾張藩での位置付けはどうだったのか？

○当時の瀬戸は有田の磁器に押されて不況だったから新たな磁器を開発したとされるが、当時の日本全国のやきものづくりの状況はどうだったのか？瀬戸はどうだったのか？

○享和元年に１６軒の窯屋が磁器転業願いを出して、これにより尾張藩も瀬戸での磁器製造を認めることになるが、これらの窯屋はどのようなものを生産していたのか？

○本家を継いだ吉右衛門の役割はどのようなものだったのか？

○民吉は九州修業に行くが、どうして民吉が選ばれたのか？

○民吉の九州修業には、それなりのお金や旅をするための手形などが必要である。当然尾張藩のバックアップがないと無理と考えるが、どのように実現させていったのか？

○九州での民吉はどのように修業を行っていたのか？

○天草の東向寺の天中和尚の果たした役割は大きいが、天中和尚とはどんな人物で民吉九州修業にどのような役割を果たしたのか？

○民吉は磁器の本場とも言える鍋島藩内での活動はほとんど出来ていないが、当時の九州における磁器生産はどのようなものだったのか？その技術はどうだったのか？

○佐々における現地妻や子供は本当に実在したのか？

○九州修業によって民吉は瀬戸に何をもたらしたのか？

○九州修業以後の民吉はどのような活動をしていたのか？受け継いだ二代民吉はそれをどう発展させていったのか？

○瀬戸における磁器開発に大きく寄与したのは加藤唐左衛門と言えるが、唐左衛門はどのような人物だったのか？どのような功績があるのか？